

11月3日「日本国憲法が公布された日」 文化の日（自由と平和を愛し、文化をすすめる）、 憲法9条改悪に反対する集会に参加しました！

— 大阪市の廃止・改憲勢力の目的と、菅政権による戦争をしやすい国づくりに対し、今こそ多くの市民・労働組合と連帯してストップをかけよう！ —

11月3日、私たちは、大阪市阿倍野区で開催された「戦争をさせない1000人委員会大阪」が主催する「輝け憲法！平和といのちと人権を11.3大阪総がかり行動」に参加しました。ちょうど11月1日に大阪都構想の是非を問う（略）住民投票が実施され、反対多数となり大阪市が存続される結果となりました。大阪維新の会が掲げた目的が2度に渡って市民からNO！を突きつけられました。

集会では主催者を代表し挨拶した米田共同代表が、「結集した仲間によってストップをかけ維新政治に打撃を与えることが出来た。この闘いは単に大阪市廃止を阻止しただけでなく、集会のメインである憲法9条改悪阻止の流れを大きく前進させることになった。安倍政権の継承を掲げた菅首相が松井大阪維新代表と蜜月の関係にあることは承知のとおり。とりわけ改憲勢力別働隊としての維新の会に深入りしているところである。住民投票の結果は、維新政治の陥落の一步になり、その役割が菅首相が期待できなくなった。闘いを継続し大阪維新に大阪から退場してもらおう。」と挨拶がありました。

また、学術会議の任命拒否問題では、「前安倍政権時代から菅首相は官房長官時代からの官僚支配の延長線上にあり、既に文部科学省元事務次官の前川さんが官邸からの圧力により、文科省の資料が差し替えさせられたことを暴露している。この圧力をかけた人物が杉田主席補佐官だと言われている。彼は警察官僚の出身であり官邸の官僚支配を警察権力、公安権力を駆使し、官僚だけでなく野党議員や政権に批判的な学者や文化人なども監視してたのではないだろうか。このような危険な菅政権は退陣に追い込む必要がある。」と挨拶され、2020年改憲を目指していた前安倍首相の狙いを継続している菅内閣の危険性を訴えました。

また当日は、学術会議の任命を拒否された6名のうちの一人である松宮孝明・立命館大教授が参加し、「守秘義務を伴うような軍事研究は学問の自由に反する。したがってそのような軍事研究を推進することは反対だ」という意見を述べることを理由としてもしこのような措置を取られたのであればそれは断固として批判されなければいけない。」と挨拶されました。

